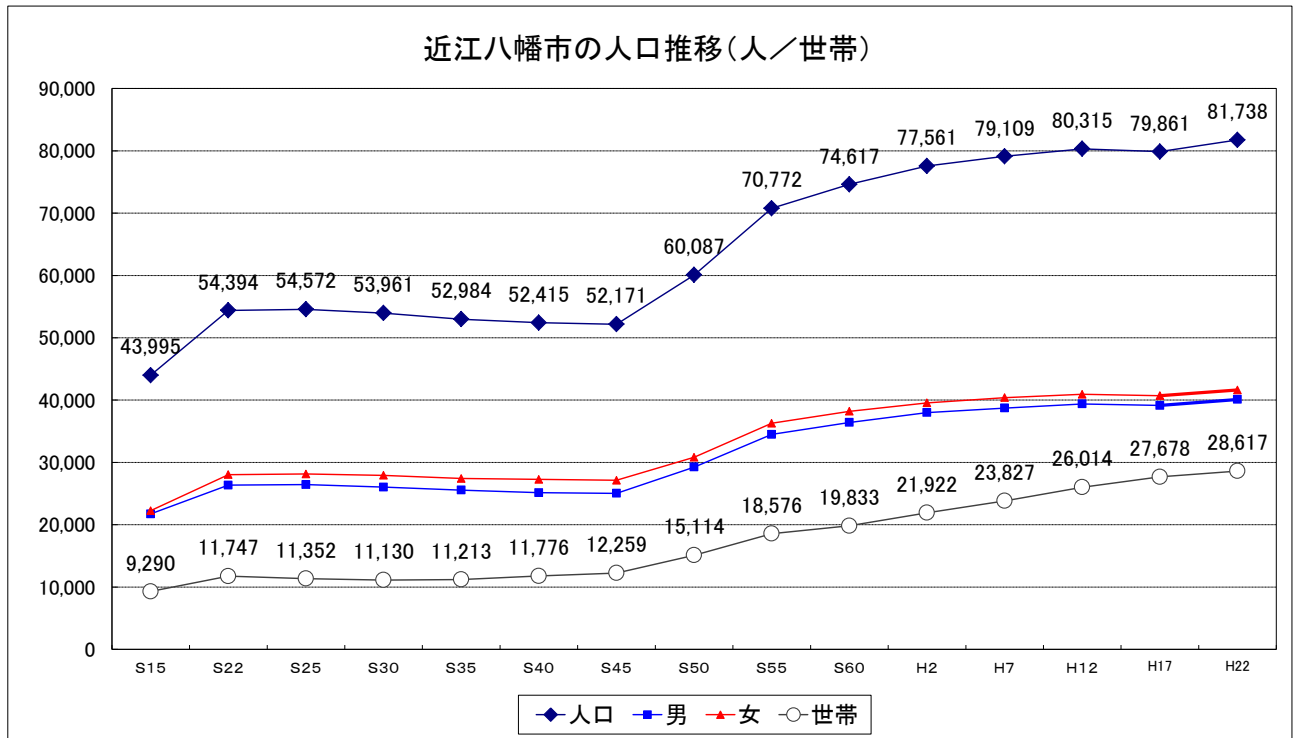


第2章 高齢者・要介護（要支援）認定者を取り巻く状況

1 高齢者の現状

(1) 人口の推移

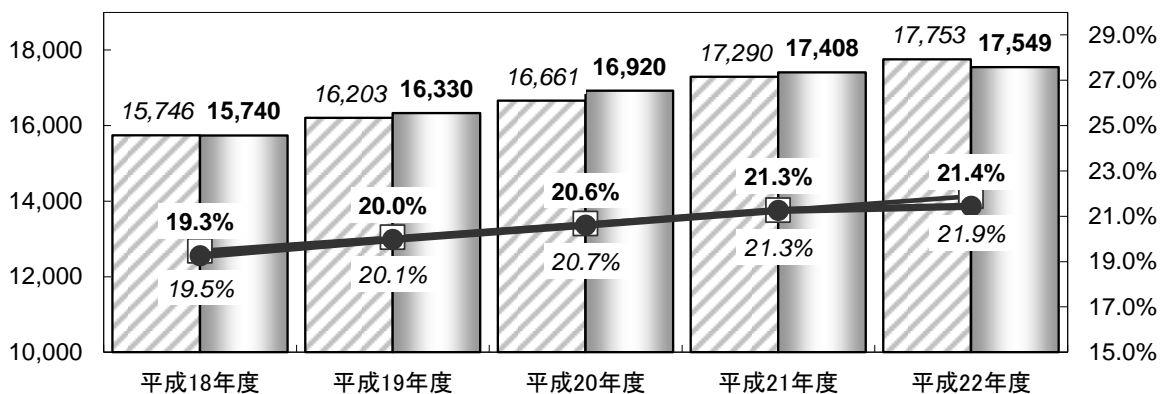
全国的には平成17年頃を境に人口減少に転じましたが、本市では平成22年に再び増加に転じています。



※国勢調査。平成17年以前は旧市町の合計

65歳以上人口と高齢化率(計画と実績の比較)

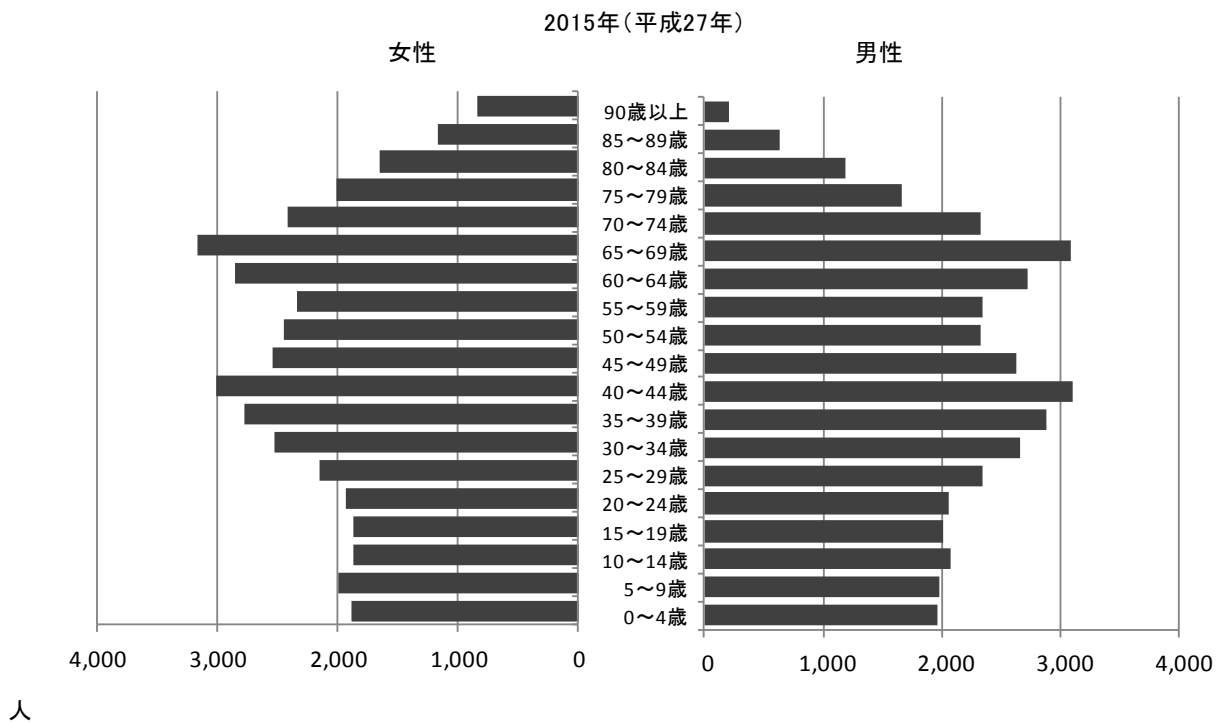
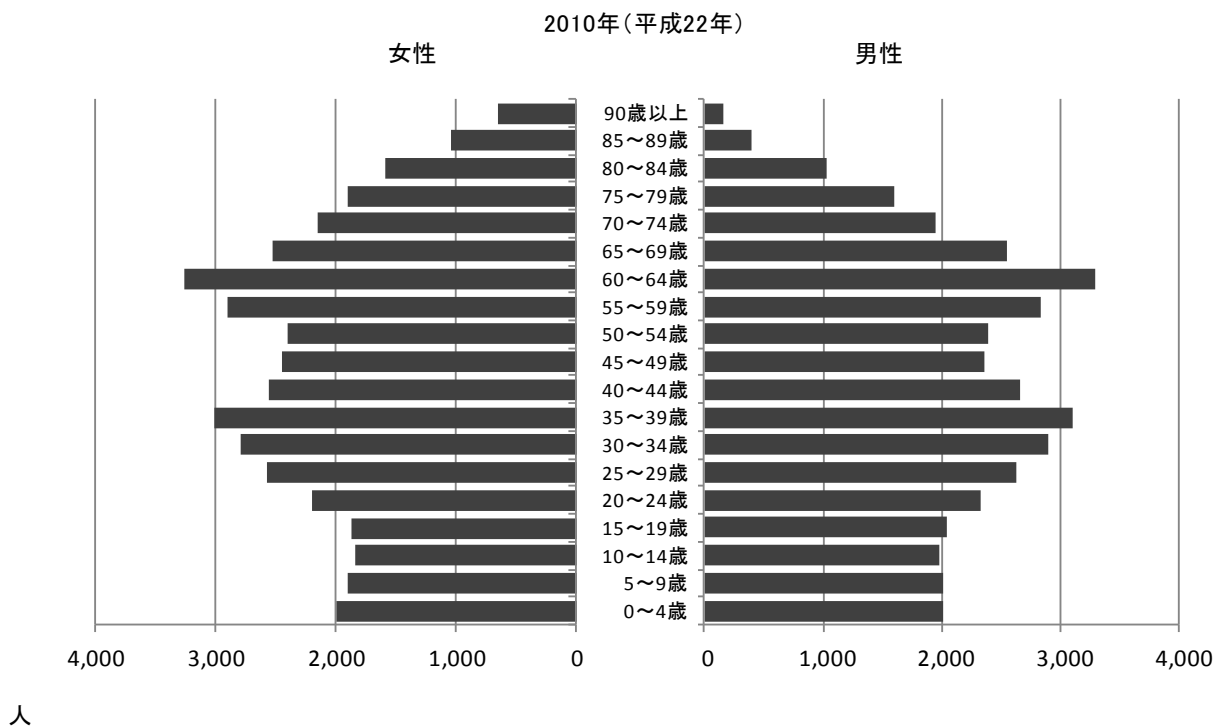
人 □ 65歳以上人口(計画) ■ 65歳以上人口(実績) □ 高齢化率(計画) ● 高齢化率(実績)



※各年10月1日現在

(2) 人口構造

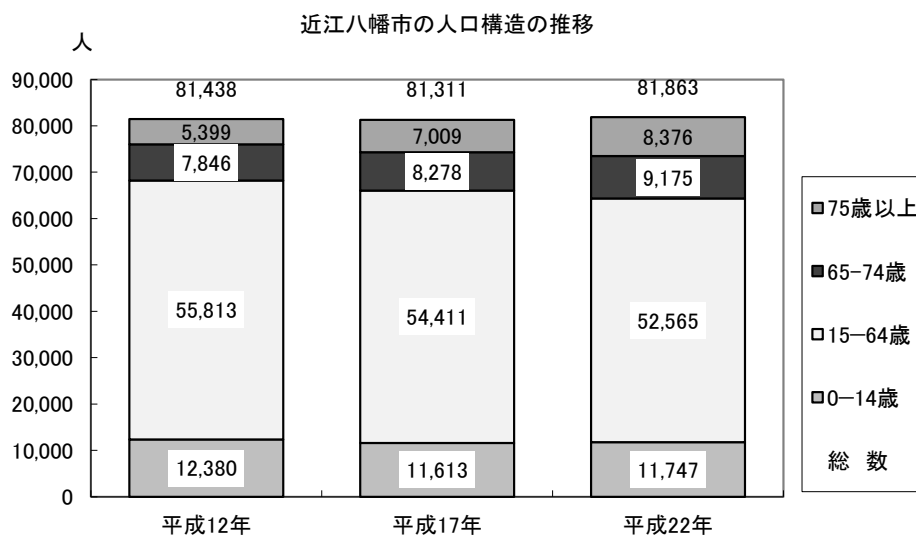
団塊世代を含む60～64歳の層が、平成26年には高齢者である65歳以上に達します。



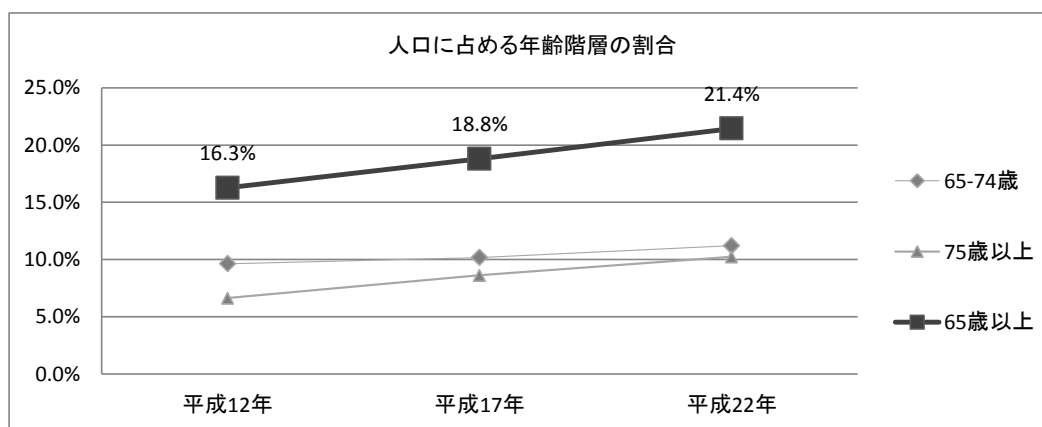
住民基本台帳プラス外国人登録。年齢不詳を各年齢層に按分

(3) 人口構造の推移

高齢化率（65歳以上人口の総人口に占める割合）は21.4%で、上昇傾向にあります。高齢者の内訳として75歳以上人口の増加が目立っています。



※住民基本台帳プラス外国人登録。年齢不詳を各年齢層に按分



(4) 高齢者の世帯の状況

高齢者のいる世帯 12,483 世帯のうち、高齢者単身世帯は 3,256 世帯、高齢者夫婦世帯は 2,837 世帯となっています。

高齢者のいる世帯の状況

	平成 1 2 年	平成 1 7 年	平成 2 2 年	平成 2 3 年
	国勢調査	国勢調査	国勢調査	住民基本台帳
一般世帯数	25,458	26,785	28,588	31,026
高齢者のいる世帯数	9,124	10,307	11,682	12,483
構成比	35.84%	38.48%	40.86%	40.23%
高齢者単身世帯	1,171	1,540	1,904	3,256
構成比	4.60%	5.75%	6.66%	10.49%
高齢者夫婦世帯	1,780	2,344	3,004	2,837
構成比	6.99%	8.75%	10.51%	9.14%
3世代同居世帯数	4,077	3,685	3,340	6,390
構成比	16.01%	13.76%	11.68%	20.60%

※平成 23 年住民基本台帳は、統計分類が異なり平成 23 年の 3 世代同居世帯数でなく高齢者と一般の混合世帯として集計した数値となっています

単身高齢者世帯や高齢者のみの世帯の割合

住民基本台帳人口および外国人登録人口の合計 (平成23年3月31日現在)

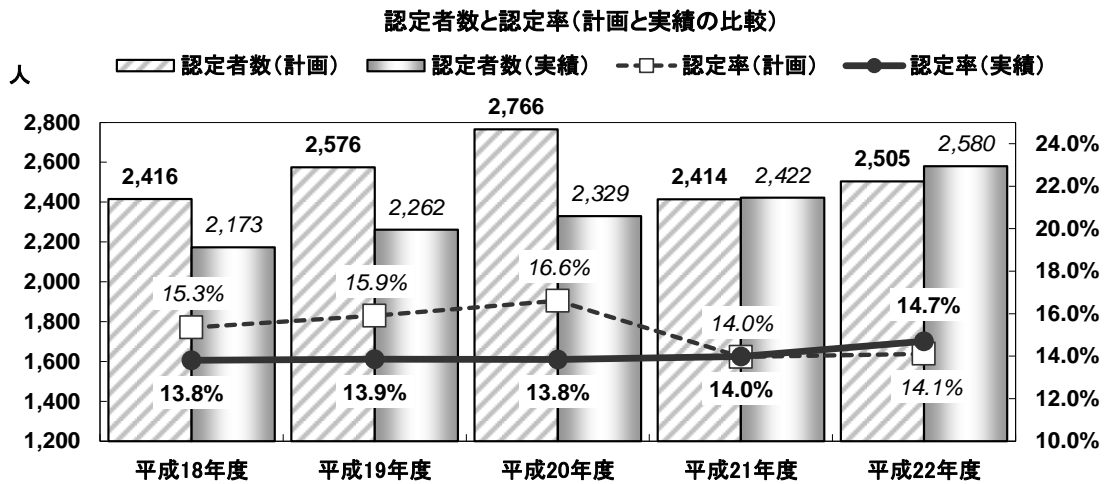
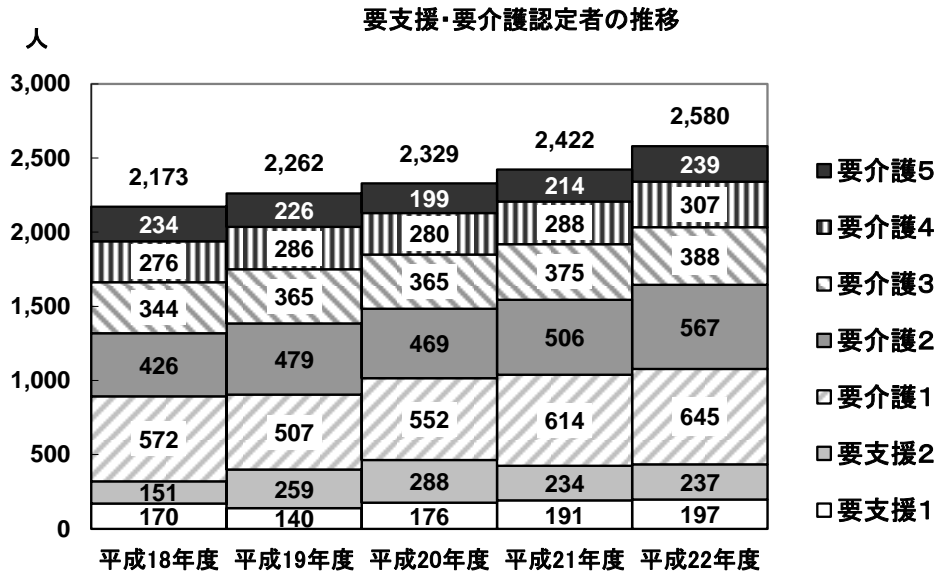
生活圏域	市全域	八幡	岡山	島	金田	馬淵	武佐	桐原	北里	安土	沖島
人口	81,810	15,811	5,676	2,016	14,590	3,690	4,122	17,292	5,756	12,504	353
高齢者(人)	17,661	3,446	1,412	463	2,597	945	1,006	3,582	1,191	2,872	147
高齢化率(%)	21.59%	21.79%	24.88%	22.97%	17.80%	25.61%	24.41%	20.71%	20.69%	22.97%	41.64%
高齢者のいる世帯(世帯)	12,483	2,480	1,006	327	1,816	636	749	2,515	822	2,025	107
一人暮らし高齢者(人)	3,256	822	283	73	439	113	253	619	178	453	23
一人暮らし率(%)	3.98%	5.20%	4.99%	3.62%	3.01%	3.06%	6.14%	3.58%	3.09%	3.62%	6.52%
高齢者のみ世帯(世帯)	6,093	1,447	470	133	913	266	388	1,260	348	825	43
高齢者のみ世帯人員(人)	9,009	2,085	668	196	1,392	427	528	1,910	527	1,211	65
高齢者のみ暮らし率(%)	11.01%	13.19%	11.77%	9.72%	9.54%	11.57%	12.81%	11.05%	9.16%	9.68%	18.41%

※島学区は沖島地区を除く

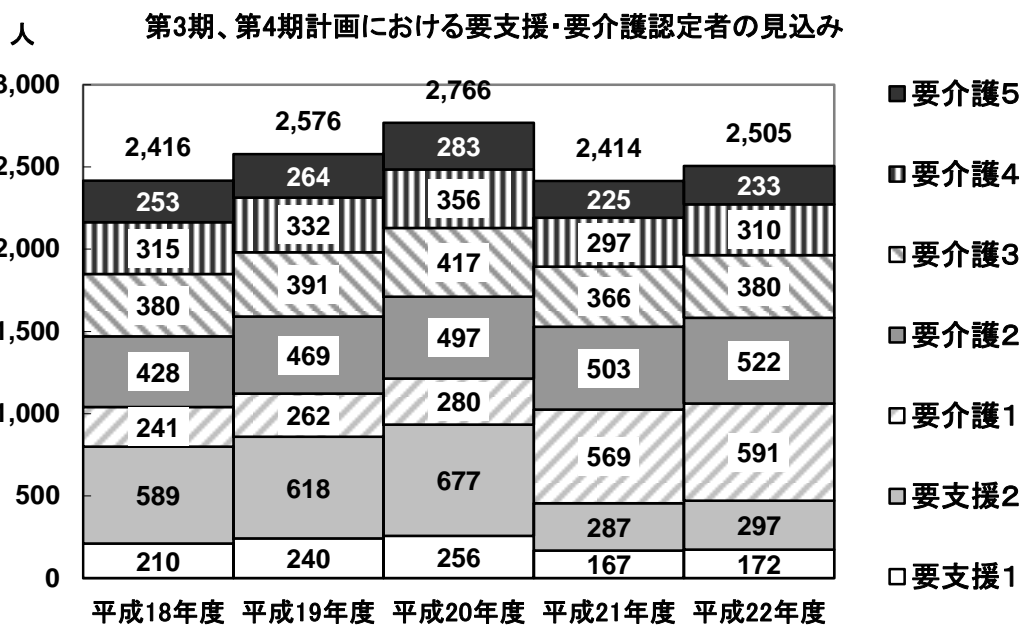
2 要介護（要支援）認定者の現状

（1）認定者数の推移

高齢化の進行とともに要介護（要支援）認定者は増加しており、特に要介護1、要介護2の人数が増加しています。

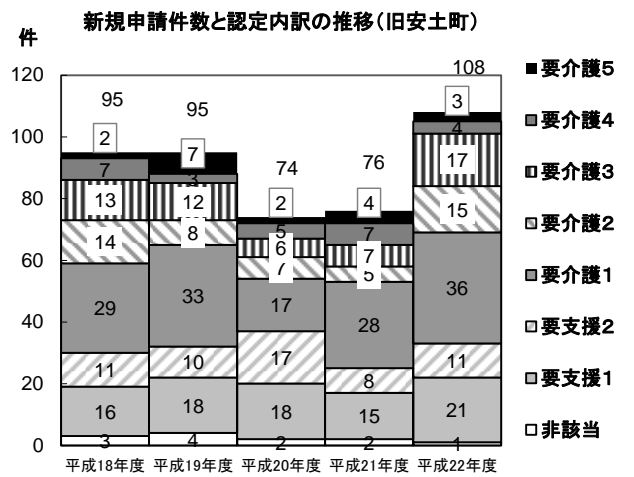
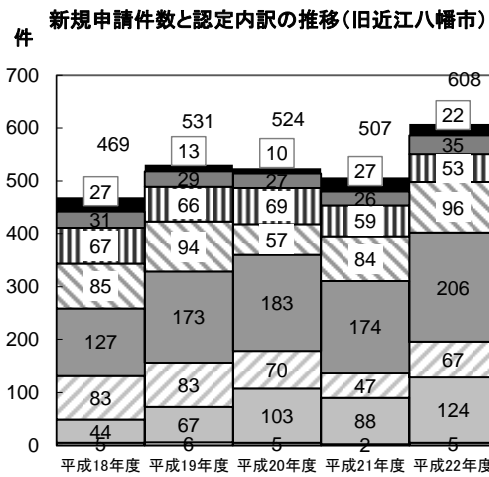
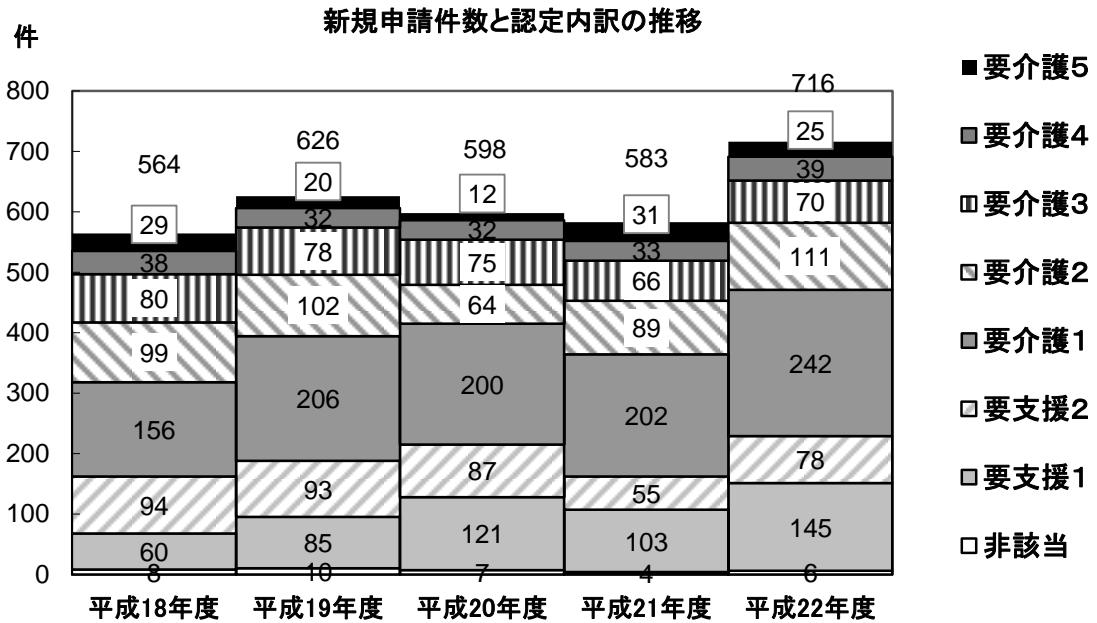


※各年 10月1日現在



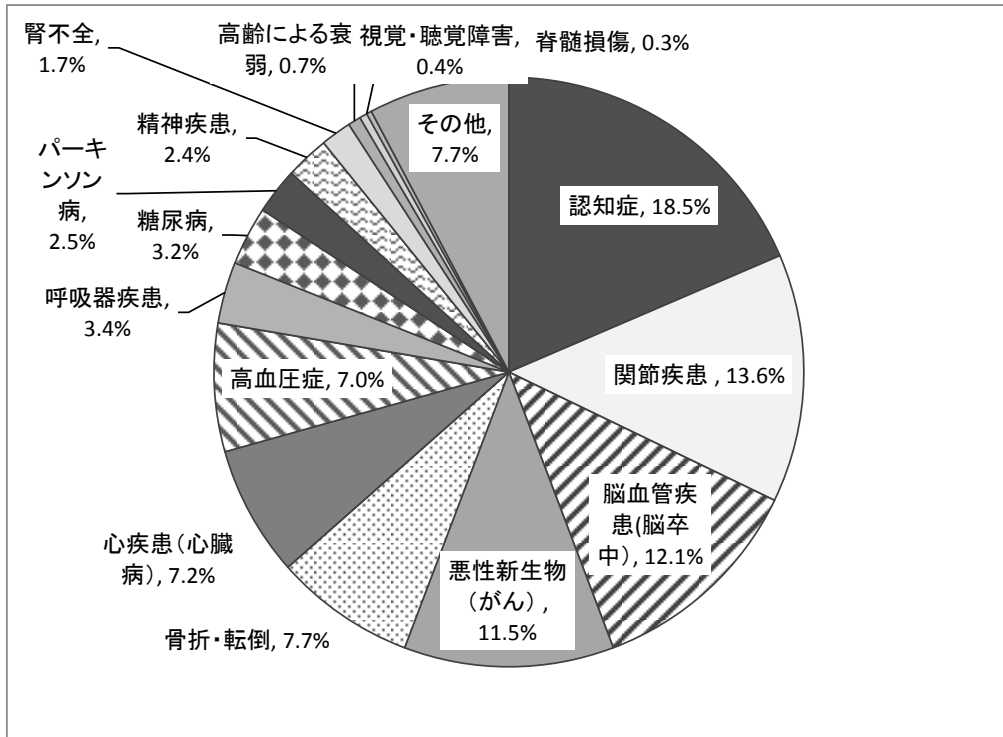
(2) 新規申請件数の推移

新規申請件数は平成22年度に急増しており、特に要支援1、要介護1の増加が目立っています。

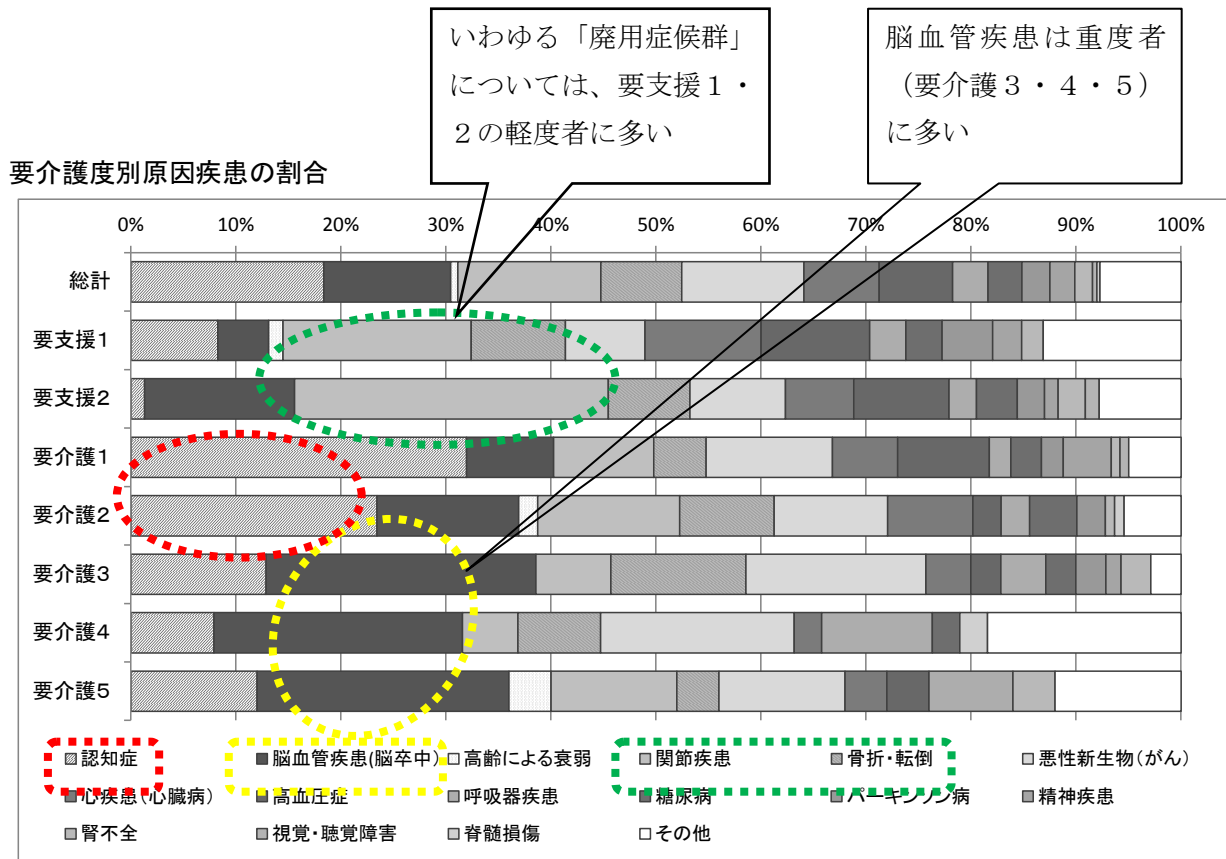


(3) 原因疾患の状況

介護を必要とするようになった原因疾患については、認知症、関節疾患、脳血管疾患、悪性新生物などが多くなっています。

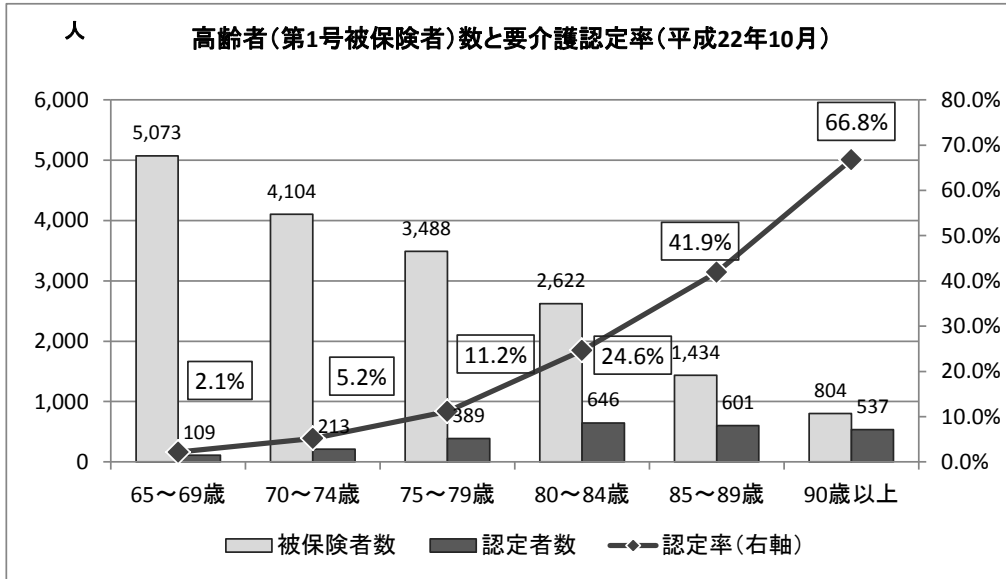


(庁内資料：平成22年度新規申請者の原因疾患。認定審査会資料の主治医意見書より抽出。)

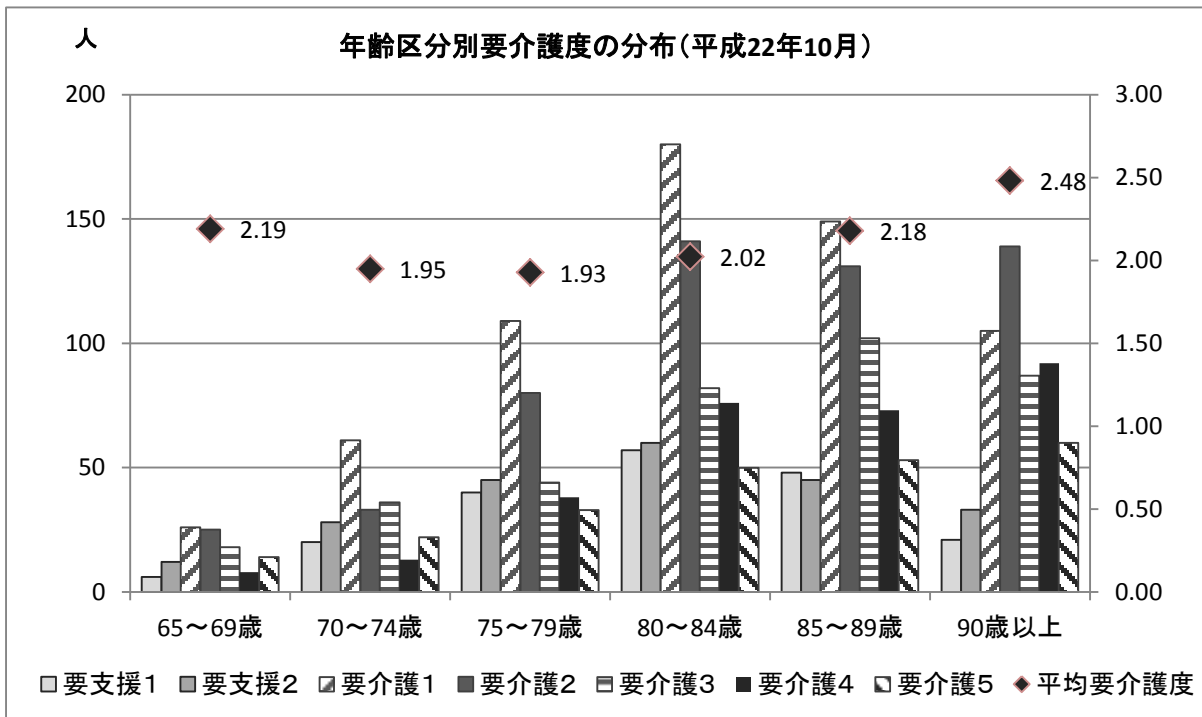


(4) 年齢区別の認定者数

年齢区別にみると、80歳以上から認定率が急上昇しています。

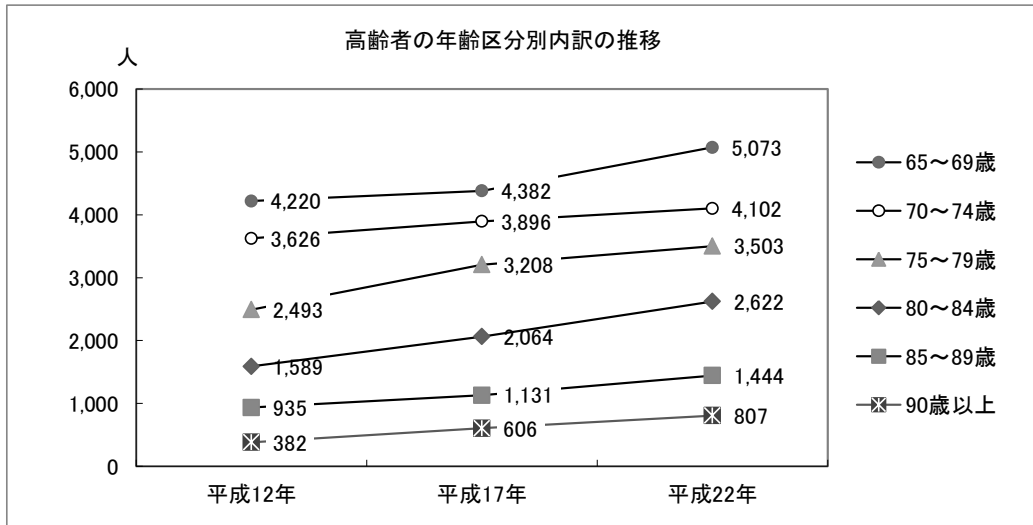


年齢階級が上がるほど重度者が増えていますが、おおむねどの年齢階級でも要介護1、要介護2が多くなっています。平均要介護度をみると65～69歳と80歳以上で2を超えています。



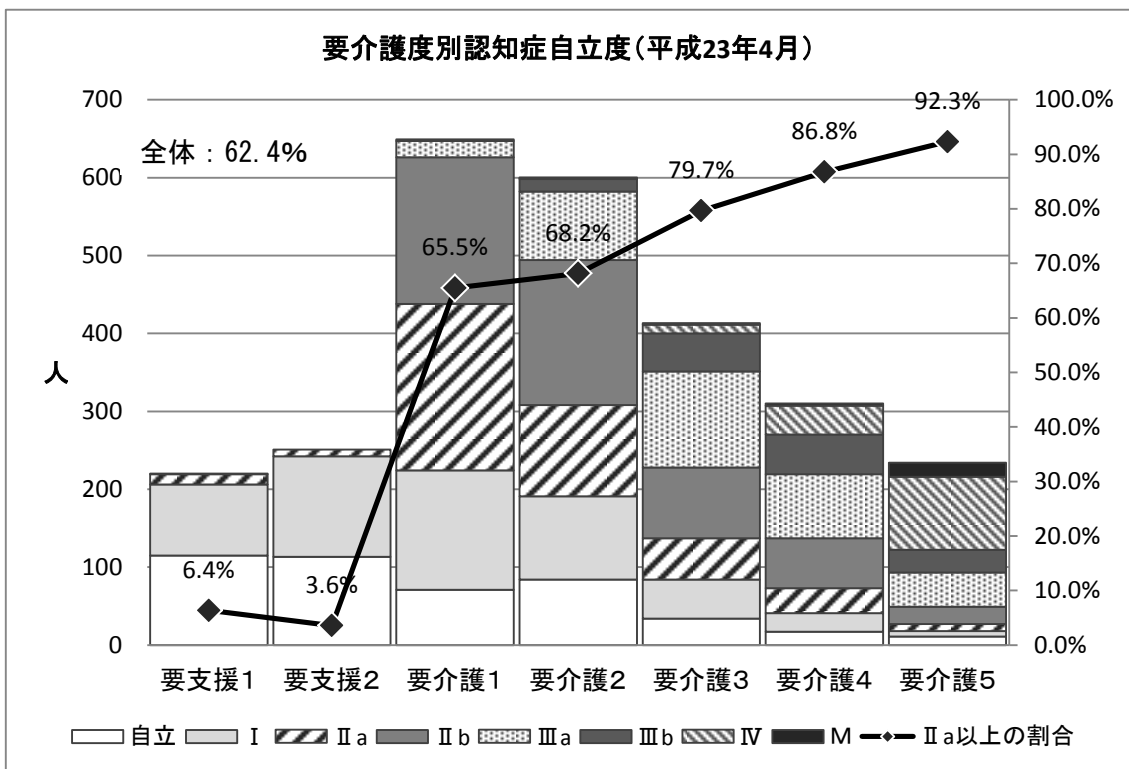
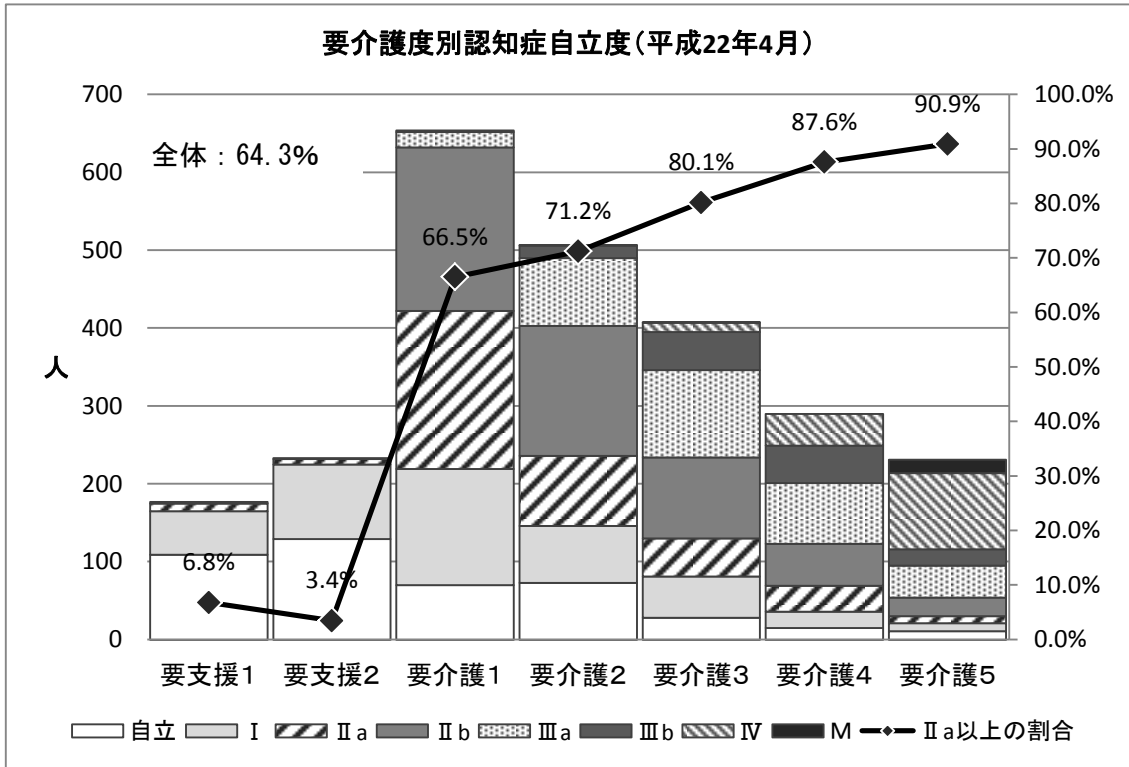
※要支援1、2は0.375として算出

(参考) 80歳以上人口の増加傾向



(5) 認知症に関する現状

認知症自立度のⅡa以上の割合は、要介護1以上では6割を超え、要介護5では9割となっています。全体では平成23年で62.4%がⅡa以上となっています。



※認知症のランク

- I : 何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内および社会的にほぼ自立している。
- II : 日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少みられても、誰かが注意していれば自立できる。
 - II a : 家庭外で上記IIの状態がみられる。(例：たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等)
 - II b : 家庭内でも上記IIの状態がみられる。(例：服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応など一人で留守番ができない等)
- III : 日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さがみられ、介護を必要とする。
 - III a : 日中を中心として上記IIIの状態がみられる。(例：着替え、食事、排便、排尿が上手にできない、時間がかかる。やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声をあげる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等)
 - III b : 夜間を中心として上記IIIの状態がみられる。(例：ランクIII aに同じ)
- IV : 日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁にみられ、常に介護を必要とする。(例：ランクIIIに同じ)
- M : 著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患がみられ、専門医療を必要とする。(例：せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等)

※認定調査員テキスト 2009【改訂版】P157 引用

3 ニーズ調査の結果

(1) 調査の方法

①調査地域

近江八幡市内全域

②調査対象及び標本抽出方法

■高齢者一般の調査 市内に住む 65 歳以上の市民 3,873 人を無作為抽出。

■要介護・要支援認定者の調査 介護保険の認定を受けている者 904 人を無作為抽出。

③調査方法

郵送による配布・回収

④調査基準日

平成 23 年 2 月 1 日

⑤調査期間

平成 23 年 3 月 3 日～平成 23 年 3 月 25 日

(2) 回収結果

	配布数	回収数	回収率
高齢者一般の調査	3,873	2,533	65.4%
要介護・要支援認定者の調査	904	547	60.5%

(3) 調査結果の概要

I 高齢者一般

1 基本的事項

(1) 世帯等の状況

同居世帯が 46.9%となっている一方、一人暮らし世帯が 16.0%、夫婦のみの世帯が 33.8%（「本人と配偶者のみの世帯（夫婦世帯で二人とも高齢者）」25.7%、「本人と配偶者のみの世帯（どちらかが高齢者）」8.1%の合計）となっています。中学校区別にみると、安土中学校区では同居世帯の割合が比較的多くなっています。

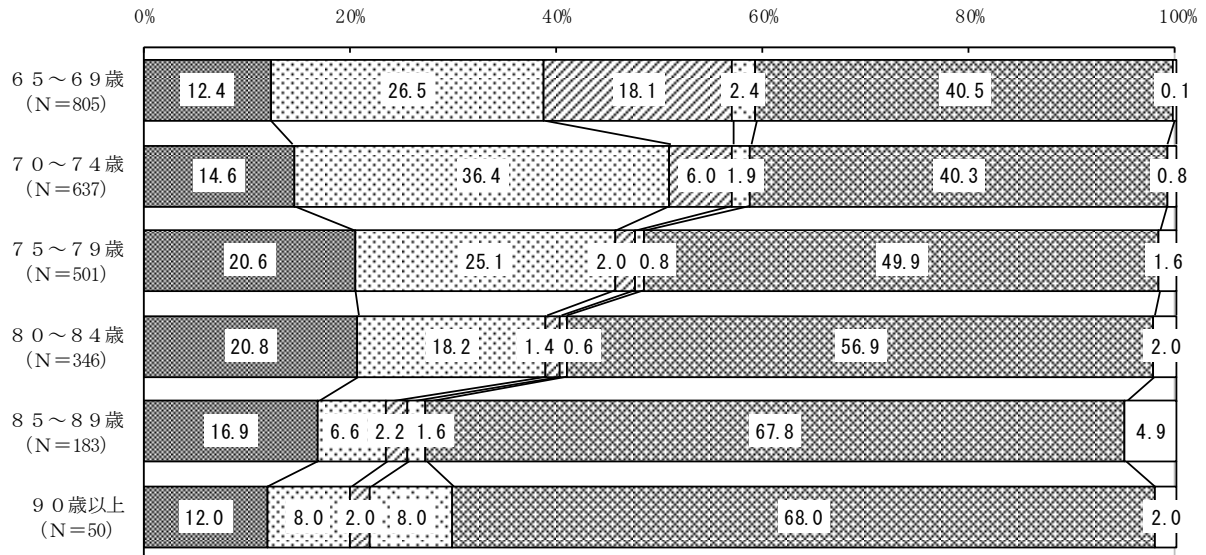
また、年齢別にみると、前期高齢者では一人暮らし世帯や夫婦のみの世帯が約 6 割と多くなっており、地域での見守り体制が必要となってくると考えられます。

その反対に、同居世帯は年齢が高くなるほど占める割合が多く、後期高齢者に同居世帯は集中しています。ただし、同居している世帯でも昼間独居が多くなっています。

また、近くに支援してくれる親族がいる人は 58.0%となっています。中学校区別にみると、安土中学校区では 64.7%と多く、八幡西中学校区では 50.0%と少なくなっています。

【Q4】世帯状況

- 本人だけの単身(一人暮らし)世帯
- ▣ 本人と配偶者のみの世帯(夫婦世帯で二人とも高齢者である)
- ▤ 本人と配偶者のみの世帯(どちらかが高齢者である)
- 本人と配偶者以外の家族があり全員が高齢者である世帯(親や兄弟との同居世帯など)
- ▥ 本人と配偶者以外の家族に高齢者でないものがある世帯(子や孫との同居世帯など)
- 無回答

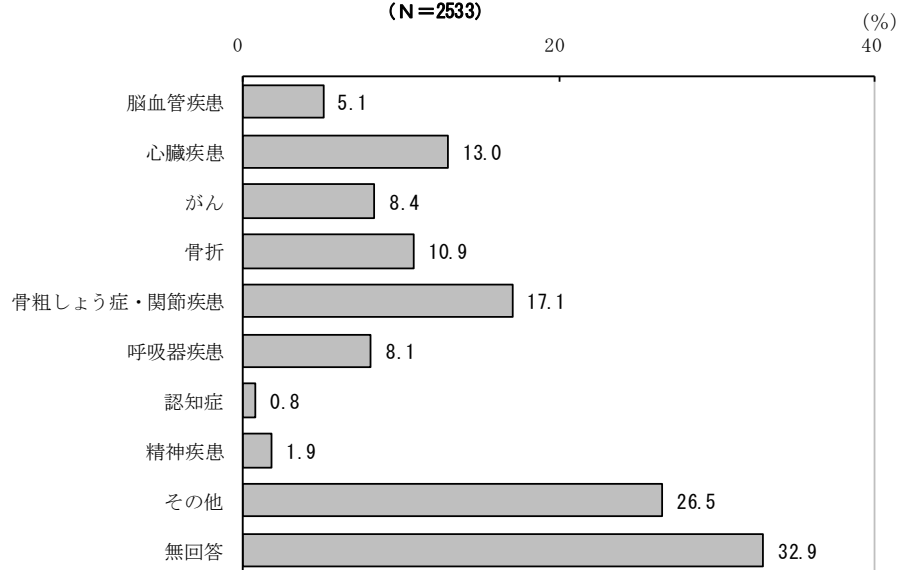


(2) 健康状態

40歳以降にかかった病気については、男性では「心臓疾患」に次いで「がん」や「呼吸器疾患」が多く、女性では「骨粗しょう症・関節疾患」や「骨折」が多くなっています。

また、現在治療中の病気についても、女性の場合「骨粗しょう症・関節疾患」が多くなっています。

【Q6-2】40歳以降にかかった病気等 <MA>
(N=2533)



2 日常生活の状況

(1) 日常生活の様子

① 普段の生活の中で何らかの介護（支援）が必要ですか。

認定を受けていない高齢者でも、「現在、何らかの介護（支援）を受けている」（3.8%）、「何らかの介護（支援）は必要だが、現在は受けていない」（11.2%）という高齢者がいます。

年齢区分別にみると、年齢が高くなるほど「現在、何らかの介護（支援）を受けている」や「何らかの介護（支援）は必要だが、現在は受けていない」の比率が高くなっています。

⑤ 現在の身体の状態は、次のどれにあてはまりますか。

「公共機関を利用して外出ができる」（66.2%）、「近所までなら一人で外出できる」（18.0%）を合わせて84.2%が一人で外出できると回答しています。

中学校区別にみると、八幡西中学校区で一人で外出できるという割合が多くなっています。この中学校区では前期高齢者（65～74歳）の割合が多いことも影響していると思われます。

⑥ 5m歩行することができますか。

中学校区別にみると、前の⑤と同じく八幡西中学校区で一人で歩行できるという割合が多くなっています。

⑬ 昨年と比べて外出回数は減っていますか。

年齢区分別にみると、年齢が高くなるほど減っている人の割合が高くなっています。

⑭ 外出の頻度はどれくらいですか。

中学校区別にみると、八幡西中学校区では週1日以上外出している人の割合が90.2%と高くなっています。

⑮ このごろ探しものをするが多くなりましたか。

⑯ 周りの人から「いつも同じことを聞く」など物忘れがあるとされますか。

⑰ 人に自分の思っていることを伝えられますか。

⑱ 自分の意思で毎日の生活ができていますか。

年齢区分別にみると、年齢が高くなるほど、機能低下を示す回答が多くなっています。

⑲ 普段の生活で、認知症に関して何らかの不安を感じることはありますか。

年齢区分別にみると、年齢が高くなるほど、不安はないという回答が減少し、「物忘れが増えた等の不安はあるが、問題なく生活している」の割合が増えています。また、75歳以上になると「受診はしていないが、認知症らしき症状があり、生活に支障がある」や「医師から認知症であるとの診断を受けている」の割合がやや増えています。

(2) 現在の活動状態

① 自分で買い物をしていますか。

年齢区分別にみると、80歳以上になると「している」「少しはしている」の割合が減少しています。世帯状況別にみると、一人暮らし世帯の場合、「している」が全体に比べて多くなっています。

② 家でのあなたの役割はありますか。

男女別にみると、女性のほうが「ある」の割合が高くなっています。

④ 運動する機会が週1回以上ありますか。（畑仕事や労働は含まない）

中学校区別にみると、安土中学校区で「はい」が全体よりも少なくなっています。

⑤ 福祉施設やデイサービス、サロンなどでボランティア活動をしていますか。

中学校区別にみると、八幡東中学校区や安土中学校区で「はい」の割合がやや高くなっています。
男女別にみると、女性のほうが「はい」の割合がやや高くなっています。

⑥ 上記のボランティア活動以外で地域の活動に参加していますか。

男女別にみると、男性の場合「自治会の奉仕活動」の割合が多く、女性の場合「老人クラブ・敬老会等」の割合が多くなっています。年齢区分別にみると、75歳までの層では「自治会の奉仕活動」の割合が多く、75歳以上の層では「老人クラブ・敬老会等」の割合が多くなっています。

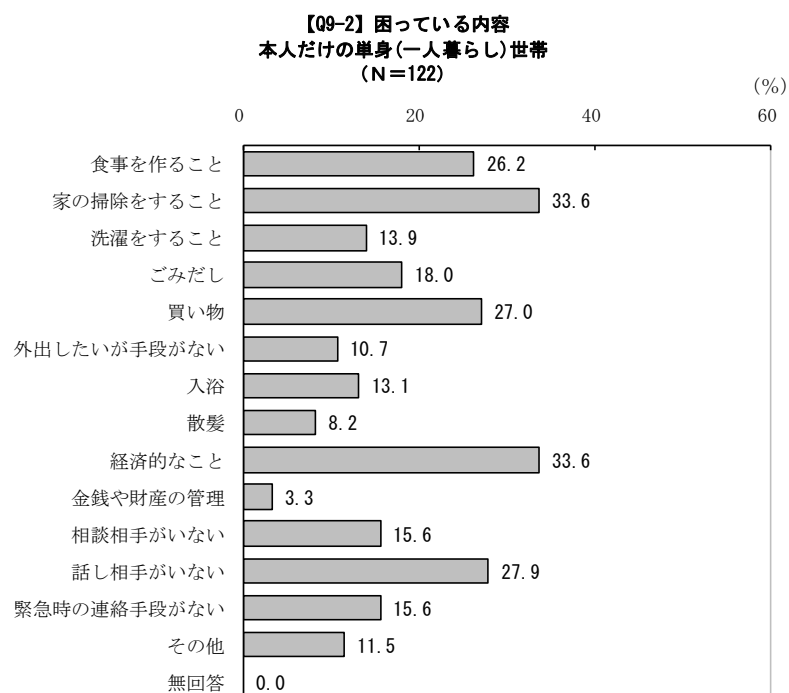
(3) 生活している上で困っていること

① 生活している上で困っていることはありますか。

「ある」が17.2%、「ない」が71.0%となっています。世帯状況別にみると、一人暮らし世帯の場合、「ある」の割合が30.0%と全体より高くなっています。

② 困っている内容は何ですか。

一人暮らし世帯の場合、「食事を作ること」、「家の掃除をすること」、「買い物」など家事全般について比率が高くなっています。また、「相談相手がない」、「話し相手がない」、「緊急時の連絡手段がない」の比率も高くなっています。



3 介護保険制度全般

(1) 介護保険料

① ご本人の介護保険料についてどう思いますか。

男女別にみると男性のほうが、また年齢区分別にみると若い層ほど、「高いと思う」の割合が多くなっています。

② 今後の保険料のあり方についてあなたの考えに最も近いものはどれですか。

最も多いのは「保険料が高くなって、市内に入所施設やサービス事業所などが十分にあったほうがよい」28.1%、次いで「保険料が高くなるなら、介護サービスの充実度は現状程度でかまわない」26.0%、「介護保険サービスの質や量は低下してもいいから、保険料が安いほうがよい」10.0%となっています。

中学校区別にみると、安土中学校区で「介護保険サービスの質や量は低下してもいいから、保険料が安いほうがよい」が多くなっています。

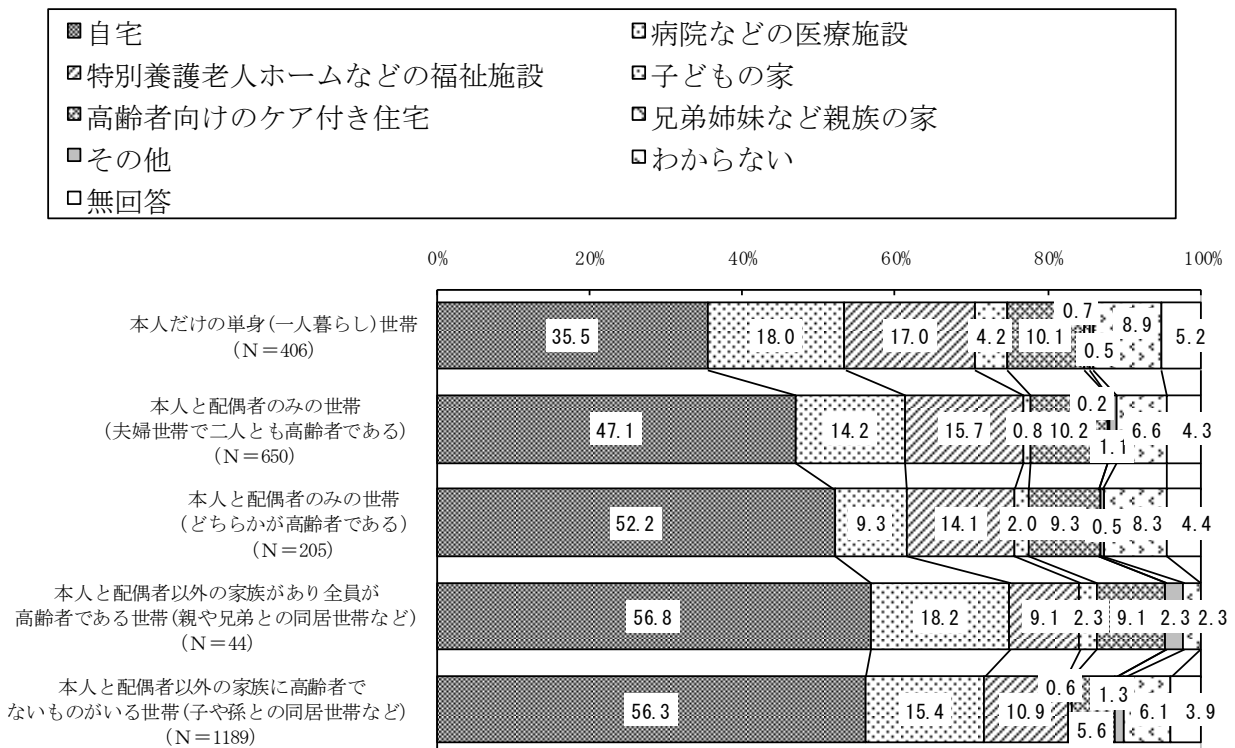
(2) 将来の生活場所

最も多いのは「自宅」49.9%、次いで「病院などの医療施設」15.1%、「特別養護老人ホームなどの福祉施設」13.3%、「高齢者向けのケア付き住宅」7.9%などとなっています。

男女別にみると、女性の場合、男性よりも「自宅」の割合が少なく、「病院などの医療施設」や「高齢者向けのケア付き住宅」が多くなっています。

世帯状況別にみると、一人暮らし世帯や高齢者だけの世帯の場合、同居世帯よりも、「特別養護老人ホームなどの福祉施設」や「高齢者向けのケア付き住宅」が多くなっています。

【Q14】 将来の生活場所



(3) 介護サービス

① 将来、仮に介護が必要になった時、介護サービスを受けたいと思いますか。

「介護サービスを利用せず家族等に介護してほしい」が17.9%、「介護サービスを利用していききたい」が72.4%となっています。男女別にみると、女性の場合、男性よりも「介護サービスを利用せず家族等に介護してほしい」の割合が少なくなっています。

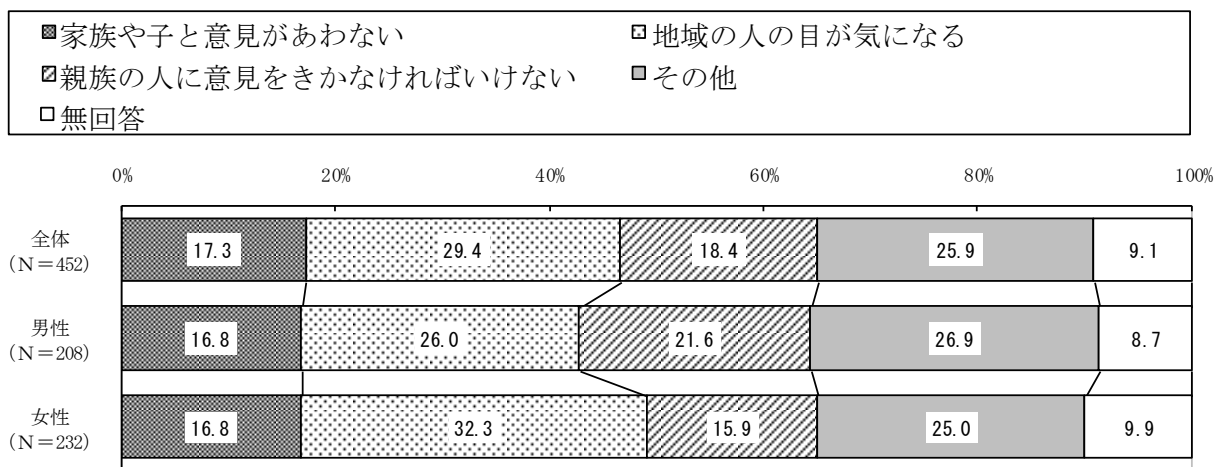
② 介護サービスを利用することに抵抗がありますか。

「はい」が17.8%、「いいえ」が73.5%となっています。

何に対して抵抗があるかについては、「地域の人が目気になる」29.4%、「親族の人に意見をきかなければいけない」18.4%、「家族や子と意見があわない」17.3%となっています。

男女別にみると、男性では「親族の人に意見をきかなければいけない」が女性よりも高く、女性では「地域の人が目気になる」が男性よりも高くなっています。

【Q16-2】何に対して抵抗があるか



4 介護予防の取り組み

(1) 教室等への参加

① 自宅近くで、週1回程度定期的に運動する教室等があれば、参加しようと思いますか。(1時間程度)

② 自宅近くで、レクリエーションする教室等があれば、参加しようと思いますか。(1時間程度)
年齢区分別にみると、年齢が若いほど「はい」の割合が多くなっています。

Ⅱ 要介護・要支援認定者

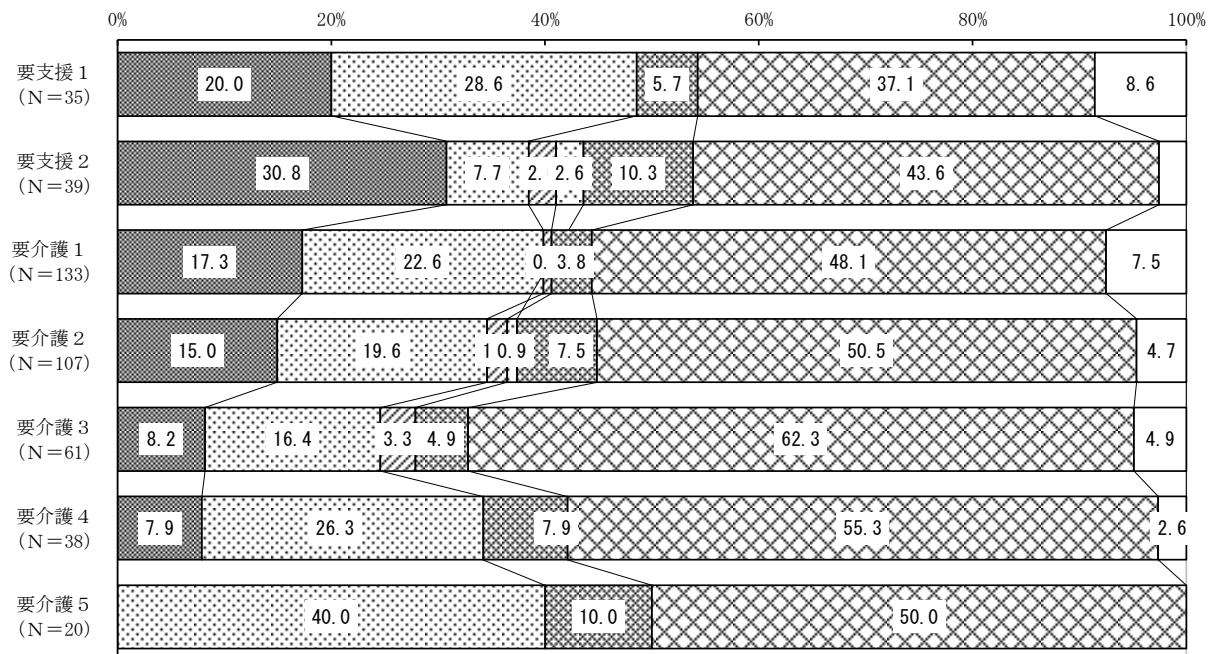
1 基本的事項

(1) 世帯等の状況

同居世帯が49.0%となっている一方、一人暮らし世帯が15.3%、夫婦のみの世帯が23.1%（「本人と配偶者のみの世帯（夫婦世帯で二人とも高齢者）」21.1%、「本人と配偶者のみの世帯（どちらかが高齢者）」1.3%、「本人と配偶者のみの世帯（二人とも高齢者でない）」0.7%の合計）となっています。

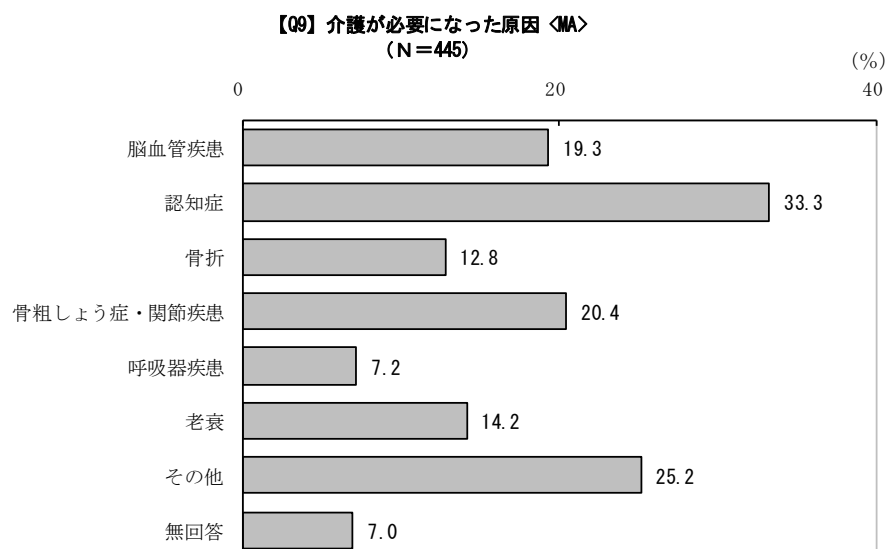
【Q8】世帯状況

- 本人だけの単身（一人暮らし）世帯
- 本人と配偶者のみの世帯（二人とも高齢者である）
- ▣ 本人と配偶者のみの世帯（どちらかが高齢者である）
- 本人と配偶者のみの世帯（二人とも高齢者でない）
- ▤ 本人と配偶者以外の家族があり全員が高齢者である世帯（親や兄弟との同居世帯など）
- ▥ 本人と配偶者以外の家族に高齢者でないものがある世帯（子や孫との同居世帯など）
- 無回答



(2) 介護が必要となった要因

最も多いのは「認知症」33.3%、次いで「骨粗しょう症・関節疾患」20.4%、「脳血管疾患」19.3%、「老衰」14.2%、「骨折」12.8%などとなっています。男女別にみると、男性では「脳血管疾患」が多く、女性では「認知症」や「骨粗しょう症・関節疾患」が多くなっています。



(3) 治療中の病気

最も多いのは「認知症」26.3%、次いで「骨粗しょう症・関節疾患」21.1%、「脳血管疾患」16.9%、「心臓疾患」16.4%、「呼吸器疾患」8.5%などとなっています。男女別にみると、やはり女性の場合「骨粗しょう症・関節疾患」や「認知症」の割合が多くなっています。

2 日常生活の状況

② 現在の身体の状態は、次のどれにあてはまりますか。

③ 5m歩行することができますか。

中学校区別や年齢区別にみると様々な違いがありますが、認定者の場合、要介護度による違いが大きいためと思われます。

⑩ 昨年と比べて外出回数は減っていますか。

⑪ 外出の頻度はどれくらいですか。

年齢区別にみると、年齢が高くなるほど外出回数が減っている人の割合が高くなり、外出の頻度が下がる傾向がみられます。

⑫ 周りの人から「いつも同じことを聞く」など物忘れがあるとされますか。

⑬ 5分前のことが思い出せますか。

⑭ 人に自分の思っていることを伝えられますか。

⑮ 自分の意思で毎日の生活ができていますか。

年齢区別にみると、年齢が高くなるほど、機能低下を示す回答が多くなっています。

⑯ 普段の生活で、認知症に関して何らかの不安を感じることはありますか。

年齢区別にみると、年齢が高くなるほど、不安はないという回答が少なくなっています。

⑰ 家でのあなたの役割はありますか。

男女別にみると、女性のほうが「ある」の割合が高くなっています。

3 介護サービス

(1) 介護サービスの利用

① 現在、介護サービスを利用されていますか。

「はい」が80.7%、「以前は利用していたが現在は利用していない」が3.1%、「いいえ」が10.6%となっています。中学校区別にみると、八幡東中学校区や安土中学校区で利用していない人の割合が他の地区より多くなっています。

② 何の介護や福祉のサービスを受けていますか。

最も多いのは「通所介護(デイサービス)」69.4%、次いで「福祉用具の貸与(レンタル)」37.3%、「訪問介護(ホームヘルプサービス)」20.3%、「短期入所生活介護(ショートステイ・特養)」16.7%、「住宅改修費の受給」13.6%などとなっています。

(2) サービスの満足度

「満足している」「普通」がともに46.2%、「満足していない」が5.6%となっています。

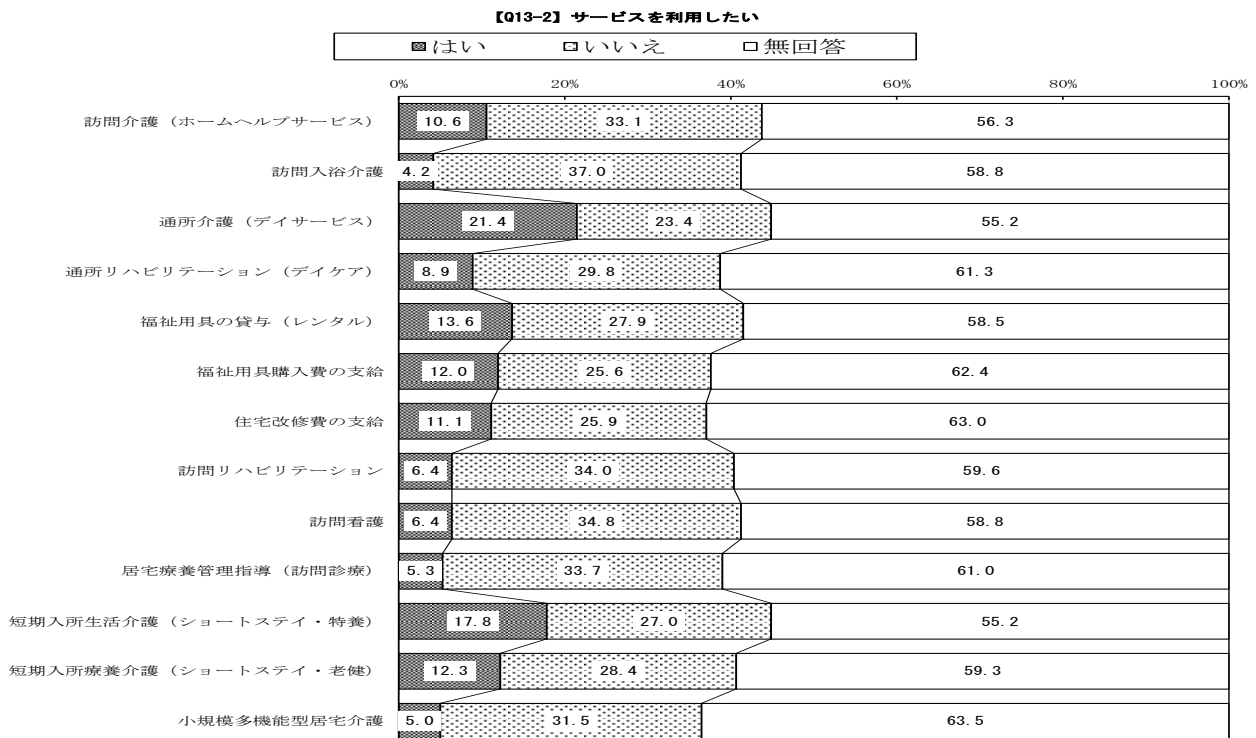
(3) サービスは足りているか

① 現在利用しているサービスは足りていますか。

「足りている」が68.5%、「不足している」が14.8%となっています。中学校区別にみると、安土中学校区では「足りている」の割合が全体より16.6ポイント高く、八幡中学校区では「不足している」の割合が4.2ポイント高くなっています。

② あなたは現在のサービスの他に、新たに下記のサービスを利用したいと思いますか。

最も多いのは「通所介護(デイサービス)」21.4%(月に6~12回利用したい)で、次で「短期入所生活介護(ショートステイ・特養)」17.8%(月に1~3回利用したい)、「福祉用具の貸与(レンタル)」13.6%、「短期入所療養介護(ショートステイ・老健)」12.3%(月に1~3回利用したい)、「福祉用具購入費の受給」12.0%などとなっています。



(4) サービスを利用していない理由

最も多いのは「今のところ自分で何とかやれているから」55.7%、次いで「家族の介護で十分」「介護が必要になった時のためにとりあえず申請している」31.1%、「サービスを使うとお金がかかるから」14.8%、「利用の仕方がよくわからない」6.6%などとなっています。

4 今後の生活

(1) 将来の生活場所

最も多いのは「自宅」71.5%、次いで「特別養護老人ホームなどの福祉施設」9.4%、「病院などの医療機関」3.8%などとなっています。

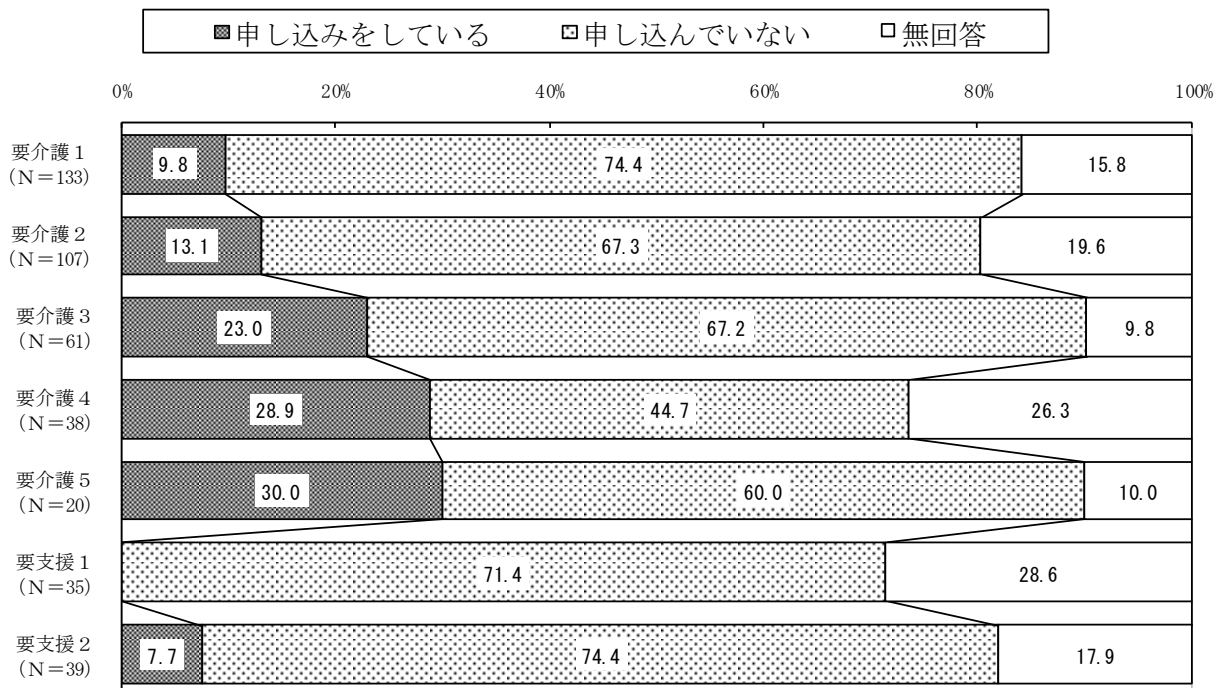
中学校区別にみると、八幡西中学校区で「自宅」の割合が全体より5.5ポイント少なくなっています。

(2) 入所施設への申込み

「申込みをしている」が13.9%、「申し込んでいない」が67.6%となっています。

中学校区別にみると、八幡西中学校区で「申込みをしている」割合が全体より6.5ポイント高くなっています。要介護別にみると、介護度が重くなるほど「申し込んでいる」割合が多くなっています。

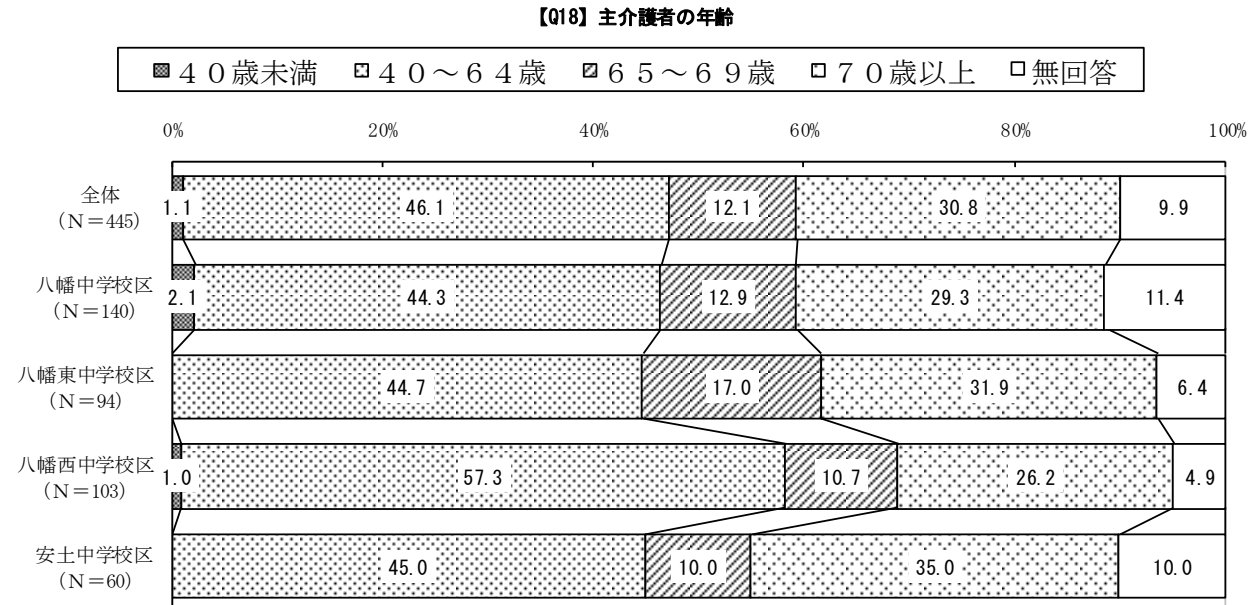
【Q16】入所施設の申込状況



5 介護者

(1) 介護者の年齢

42.9%が65歳以上の老々介護となっています。中学校区別にみると、八幡西中学校区では65歳以上は36.9%ですが、それ以外の中学校区では40%以上が老々介護となっており、本市においても深刻な状況です。



(2) 介護者の健康状態

「健康である」が24.7%、「病気（持病）はあるが変化はない」が33.9%、「以前より状態が悪くなった」が26.5%となっています。本人の要介護度別にみると、要介護4の場合、介護者が「以前より状態が悪くなった」の割合が大変多くなっています。

介護者本人が健康上の問題を抱えながら介護している場合も多数あることが分かります。

(3) 介護の負担

- ① 介護のために自分の時間が十分にとれないと思いますか
- ② 介護があるので自分の社会参加の機会が減ったと思いますか
- ③ 介護にこれ以上の時間はさけないと思いますか

要介護度別にみると、介護度が重くなるほど負担の割合が大きくなっています。

- ⑤ あて名の本人のそばにいるとイライラすることがありますか

要介護度別にみると、要介護3・4では「よくある」や「いつもある」の割合が多くなっています。

- ⑥ 介護のために、体調を崩したことがありますか

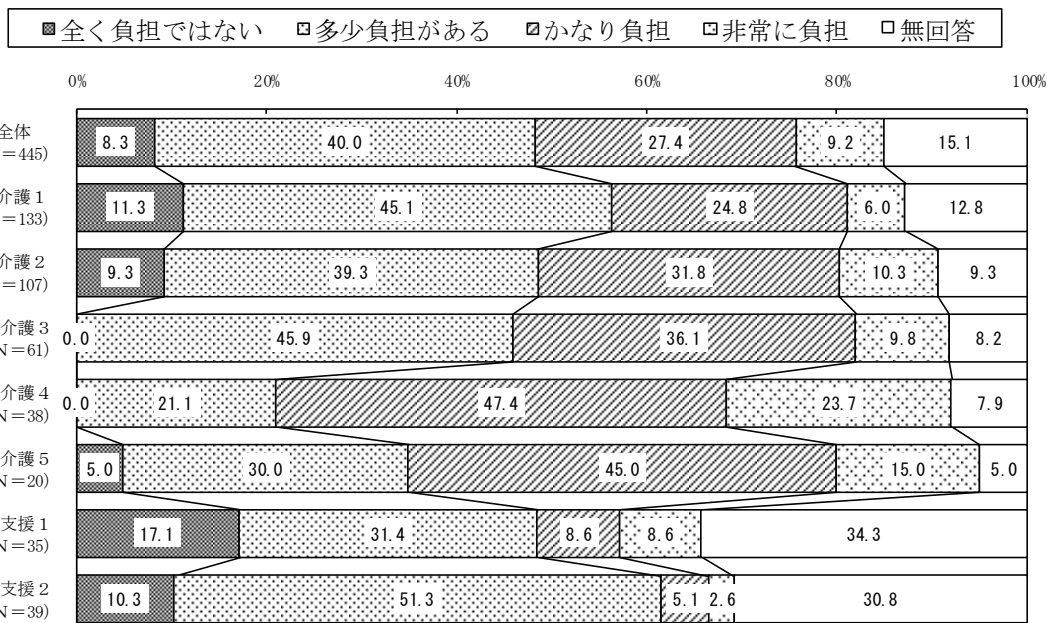
要介護度別にみると、要介護4、5では「ない」の割合が少なく、「時々ある」や「よくある」、「いつもある」の割合が多くなっています。

- ④ 介護に自分はこれ以上頑張れないと思うことがありますか

- ⑦ 介護するということはどれくらい自分の負担ですか

要介護度別にみると、介護度が重くなるほど負担の割合が大きくなっており、特に要介護4では「かなり負担」や「非常に負担」が多くなっています。

【Q20-7】介護の負担 負担

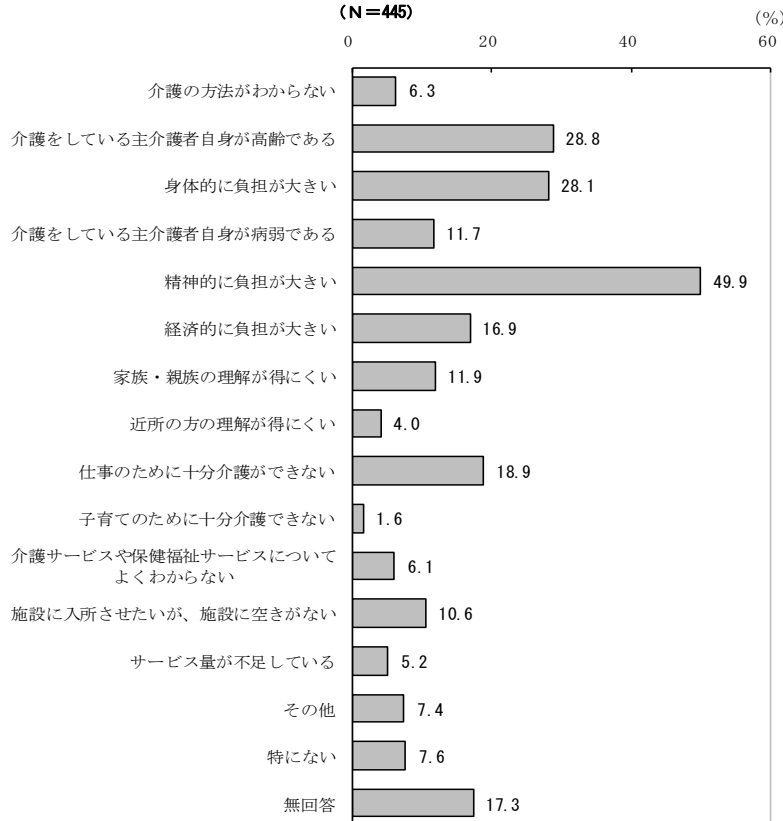


(4) 介護を行う上で困っていること

最も多いのは「精神的に負担が大きい」49.9%、次いで「介護をしている主介護者自身が高齢である」28.8%、「身体的に負担が大きい」28.1%、「仕事のために十分介護ができない」18.9%、「経済的に負担が大きい」16.9%などとなっています。

要介護度別にみると、要介護4・5になると、精神的な負担のほかに、身体的な負担が増え、要介護4では「施設に空きがない」の割合も多くなっています。

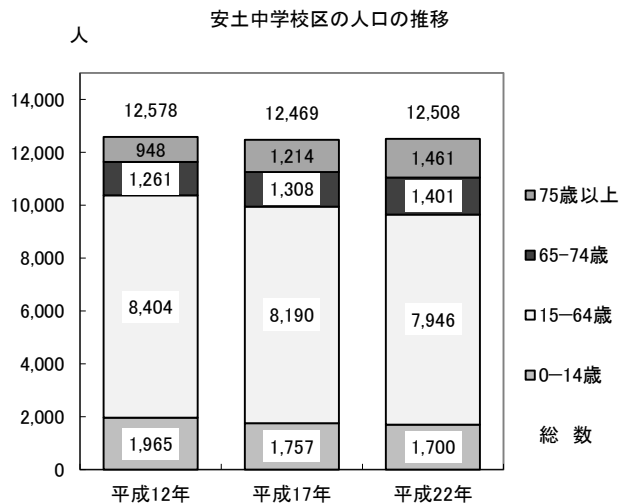
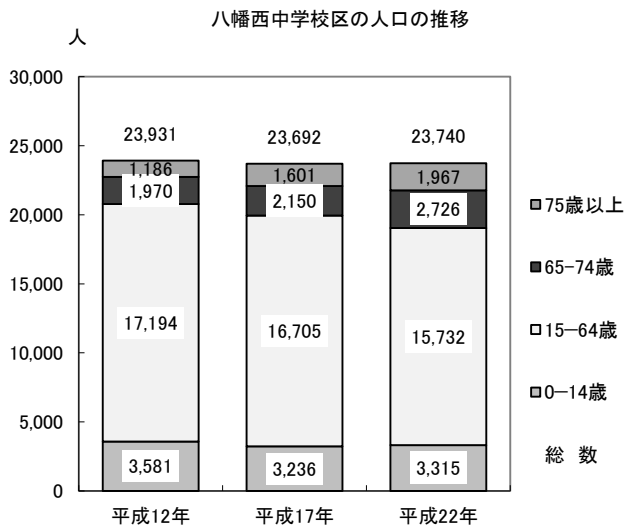
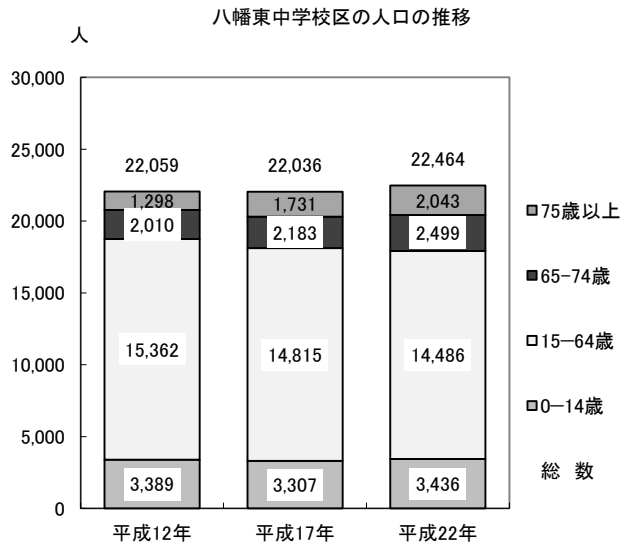
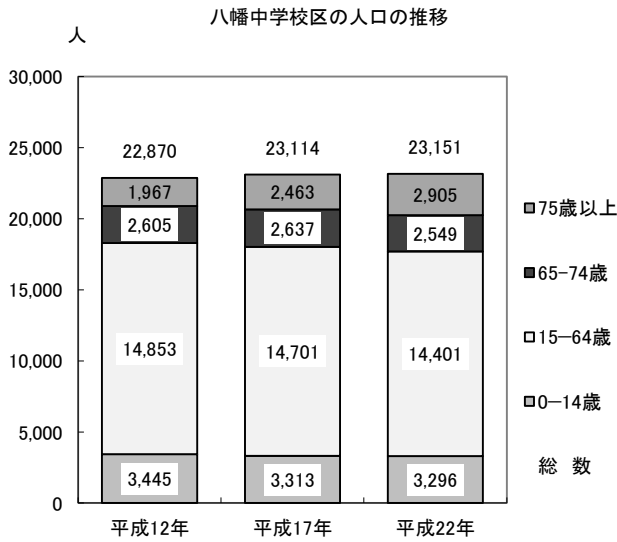
【Q21】介護への困りごとや不安 (N=445)



4 日常生活圏域の現状

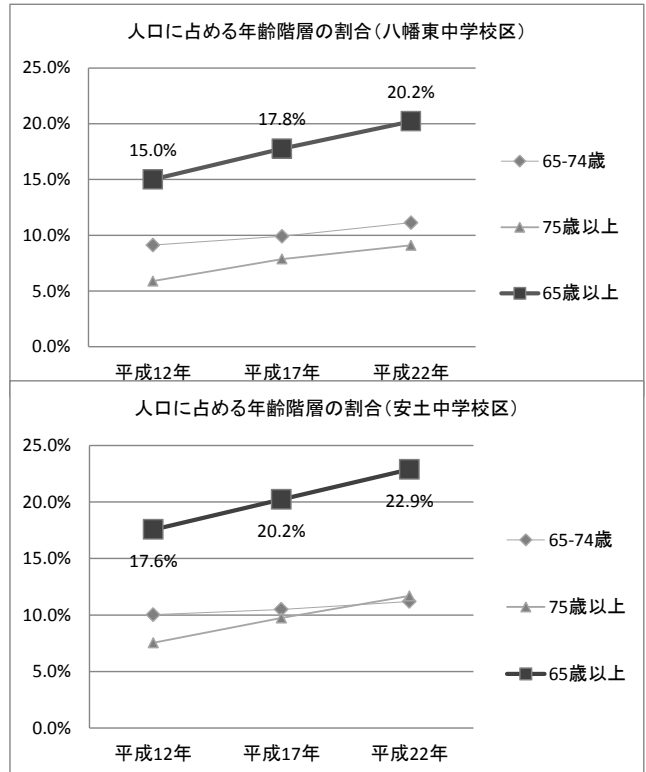
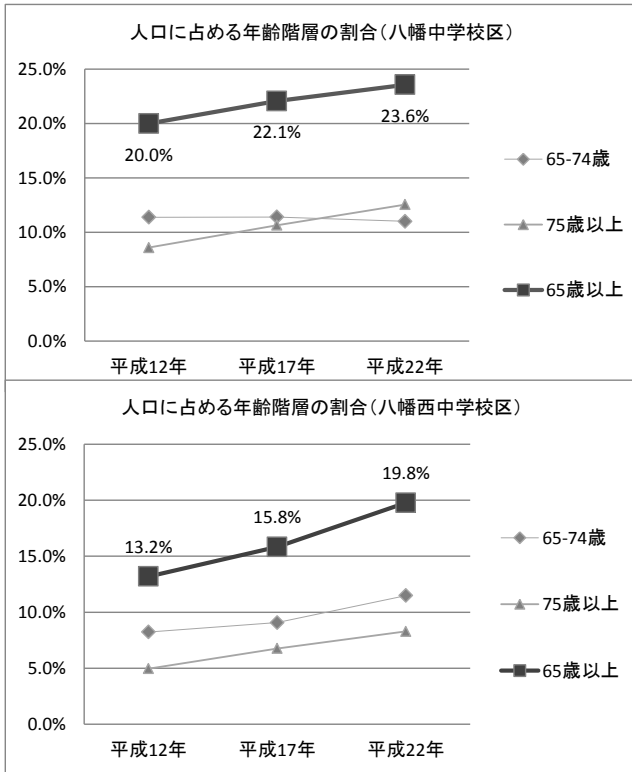
(1) 人口

平成17年から22年にかけて、八幡中学校区や八幡西中学校区、安土中学校区では横ばいで、八幡東中学校区では微増しています。

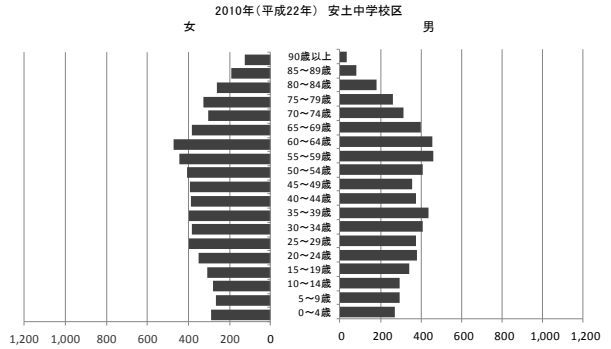
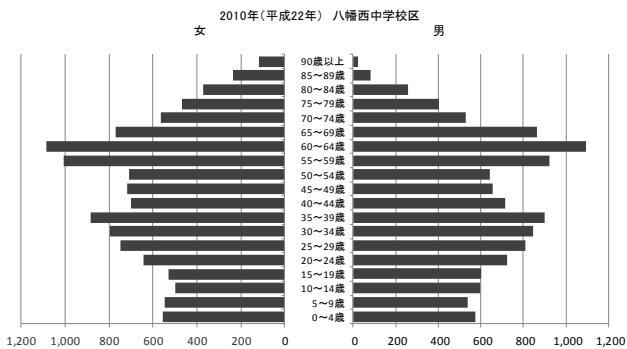
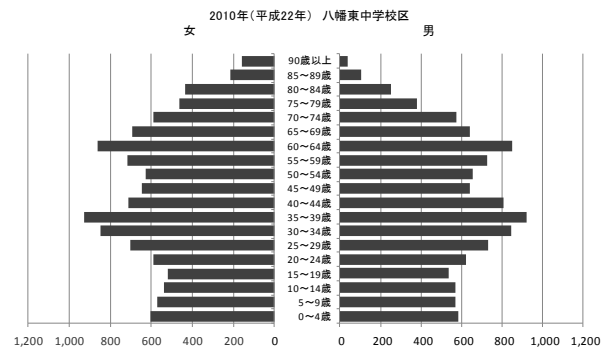
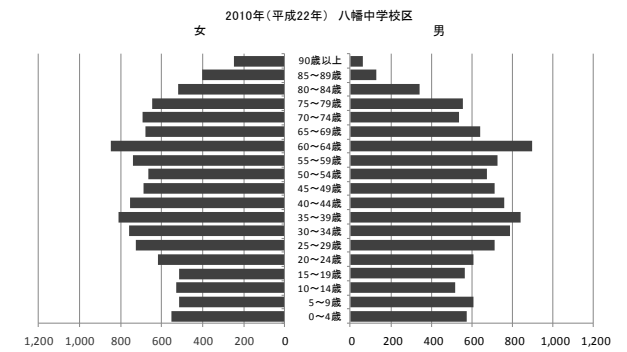


(2) 人口構造

八幡東中学校区や八幡西中学校区では比較的高齢化率が低い現状ですが、いずれも 60～64 歳の層が平成 26 年には高齢者である 65 歳以上に達します。

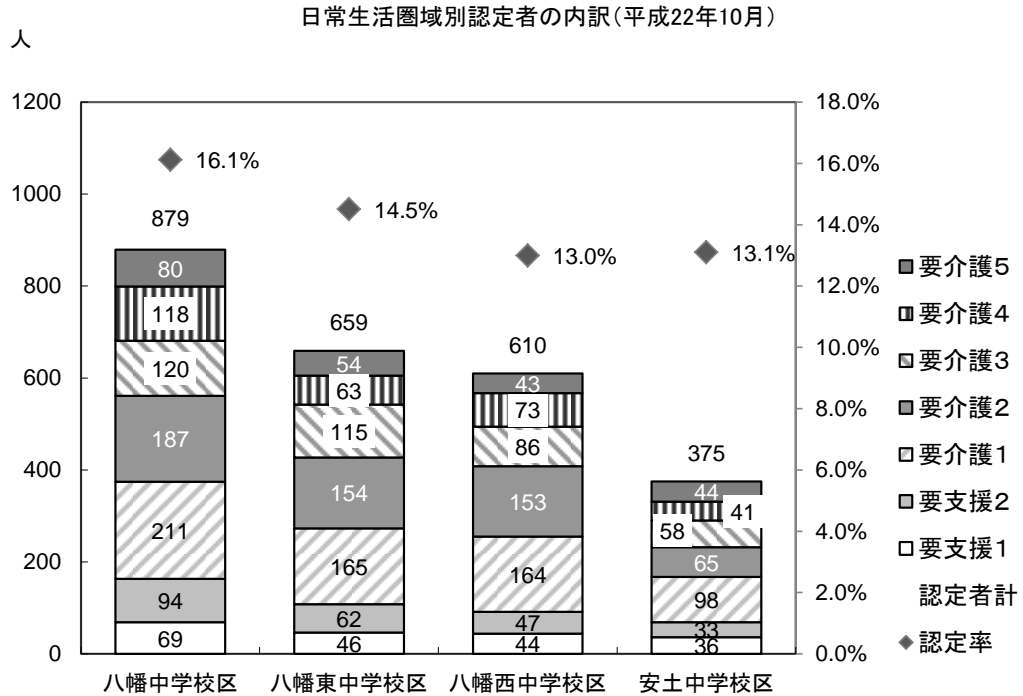


※基準日：各年 10 月 1 日



(3) 認定者の現状

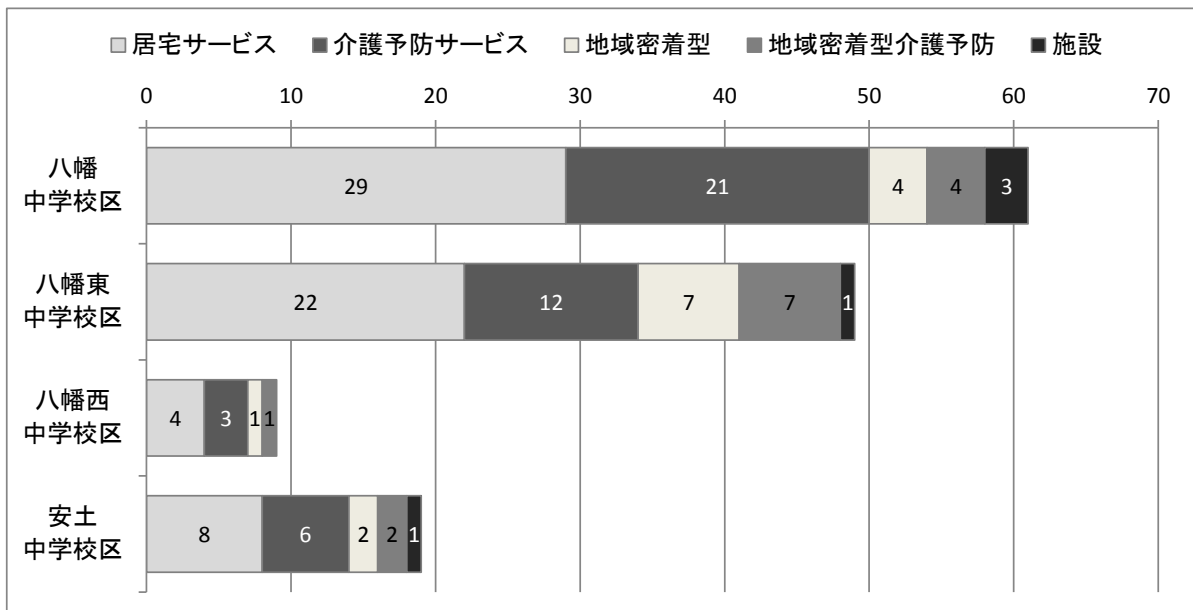
日常生活圏域別の要介護（要支援）認定者の状況は次のとおりで、認定率（65歳以上高齢者に対する認定者数の比率）は13.0%から16.1%まで大きな開きがあります。



注1: 住民基本台帳による。住所地特例施設（市外の介護保険入所・入居施設）は含まない
 注2: 特に施設や居住系の介護保険施設の所在地により認定者が集中する場合がある。

(4) サービス種類別事業所数

居宅サービスや地域密着型サービスなど在宅生活を支える事業所が、八幡中学校区や八幡東中学校区に多く立地しており、八幡西中学校区や安土中学校区には少ない状況です。



※平成23年3月末現在